

## 「幸せいっぱい、みんなの学校」

小林市立幸ヶ丘小学校 川畑 真菜

私の勤務する幸ヶ丘小学校は、小林市の中心部から10キロほど離れた霧島連山の麓にある生駒高原のすぐ近くに位置しています。昭和35年に創設された幸ヶ丘小学校の校名の由来は、～この地域の人々が「幸せ」になるように～と願って付けられたそうです。

幸ヶ丘小学校は、現在全校児童12名(1年生1名、2年生2名、3年生2名、4年生2名、5年生1名、6年生4名)の児童が在籍しています。

一つ目の特長として「小規模特別認定校」の制度があり、小規模校ならではの地域とともにみんなで見守っていける環境が整っています。

また、少人数のため、給食や遠足などの行事は全員で活動します。全校児童での活動が多いこともあり、みんな学年関係なく助け合い、全校児童がまるで兄弟姉妹のように仲が良いのもこの幸ヶ丘小学校の魅力です。

一番の特色として「幸ヶ丘太鼓」というものがあります。この幸ヶ丘太鼓は平成13年から始まり、20年以上の歴史があります。橘太鼓「響座」より講師の先生を年に10回程度お招きし、運動会や学習発表会のほか、西諸県音楽大会や太鼓フェスティバルに向けて日々練習を積んでいます。体全体に響き渡る太鼓の音は毎回圧巻で、子どもたちの勇士にとっても感動します。

事務職員として勤務する中で、子どもたちと直接関わる機会も多く、教育活動にも参加できることは私の大きな喜びでもあります。普段はデスクワークが中心ですが、様々な学校行事に関われる機会も多いのは小規模校ならではのです。小さい学校だけれど、地域や保護者の方々、教職員が一丸となって子どもたちをサポートし、その大きな力でみんなが幸せになれる学校…それが幸ヶ丘小学校です。

校舎は老朽化も進み、雨の日は雨漏りの心配も尽きませんが、今日も幸ヶ丘小学校の子どもたちは元気いっぱいで学んでいます。

子どもたち一人一人の成長を見守りながら、安心して学べるようにこれからもサポートしていきたいと思います。